

平成22年 5月 10日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19520291
 研究課題名（和文） アジアにおけるシェイクスピア上演アーカイブの構築

研究課題名（英文） A Web Archive of Asian Shakespeare Productions

研究代表者

末松 美知子（SUEMATSU MICHIKO）

群馬大学・社会情報学部・教授

研究者番号：90216276

研究成果の概要（和文）：デジタル化の進展を生かした比較演劇の研究手法確立を目指し、アジアにおけるシェイクスピア上演ウェブ・アーカイブA-S-I-A(Asian Shakespeare Intercultural Archive)の構築を行った。アーカイブのコンテンツ（アジアにおけるシェイクスピア上演作品映像と上演に関する資料など）取得と詳細な上演作品分析データの作成後、デジタル化してウェブ上で公開した。

また、研究成果の国際的発信を行うと同時に、研究者や演劇関係者の国際的なネットワーク形成に努め、アジアにおけるインターカルチュラルなシェイクスピア上演研究の新たな可能性を模索した。

研究成果の概要（英文）：To promote comparative theatre study in the age of digitalization, we have created a web archive of Asian Shakespeare productions: A-S-I-A (Asian Shakespeare Intercultural Archive). Our web archive includes complete video footage in streaming form, accompanied by detailed metadata of productions and digital collection of theatrical materials.

We have also reported issues of digital Shakespeare in international conferences and fostered an international research network among scholars and practitioners to develop the new field of Asian Shakespeare intercultural performance studies.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：シェイクスピア、アジア、上演研究、デジタルアーカイブ

1. 研究開始当初の背景

- (1) シェイクスピア上演研究の進展
 1970年代以降、世界のシェイクスピア研

究において上演研究が注目を集め、研究の一分野として成果をあげてきたが、日本で上演研究に注目が集まるようになったのは、

1991年に東京で開催された第5回国際シェイクスピア学会以降のことである。この国際学会で示された日本のシェイクスピア上演への世界的関心を受けて、その後日本のシェイクスピア上演研究は、日本の上演を対象とする研究からインターカルチュラルな視点を持つ比較研究まで幅広く発展を遂げて来た。

(2) ウェブ・アーカイブによる上演研究の可能性

デジタル化時代にふさわしい新たな演劇研究の一手法として、上演に関わる様々な資料を一括し、ウェブ・アーカイブとして構築する作業が世界各地で着手され始めたが、いずれも欧米の上演の情報および写真を中心としたウェブ・アーカイブであり、アジア地域ではほとんど手付かずの状況であった。

上記(1)(2)の状況から、アジア主導で、アジアのシェイクスピア上演ウェブ・アーカイブを構築し、インターカルチュラルな上演研究の新たな可能性を探ることは急務であると判断した。

2. 研究の目的

本研究は、アジアにおけるインターカルチュラルなシェイクスピア上演研究の核となるウェブ・アーカイブを構築することにより、日本とアジア諸国のシェイクスピア上演比較研究、さらには、アジアと世界のシェイクスピア上演の比較研究に貢献することを目的としている。

また、インターカルチュラルな比較演劇研究に不可欠な演劇研究者の国際的なネットワーク形成もめざす。

3. 研究の方法

(1) 国際共同プロジェクトチームの設立

アジアにおけるシェイクスピア上演ウェブ・アーカイブ構築という大規模な国際プロジェクトを一国の研究者のみで実行することは困難であるため、アジア演劇のプロジェクトを計画中の次の機関と協力し、国際共同プロジェクトとしてアーカイブ構築を進めることとした。

- ・シンガポール国立大学 (シンガポール) 「Relocating Intercultural Theatre」プロジェクト
- ・マサチューセッツ工科大学 (合衆国) 「Shakespeare Performance in Asia」プロジェクト

(2) アーカイブ・コンテンツの準備

日本、台湾、中国、韓国、シンガポールなどの東南アジアにおけるシェイクスピア上演の作品映像資料および著作権の獲得と、プログラムなどの上演に関する資料収集を行い、デジタル化した。

(3) 研究集会の開催と研究成果の国際的発信

作品映像資料などの蓄積が進んだ時点から、国際共同プロジェクトチームによる定期的な研究集会を開催し、アーカイブの具体的な構築方法などについて検討した。

また、国内外の学会で、アーカイブ構築の進行状況を報告するとともに、ウェブを利用した上演研究の意義や問題点について検証した。

(4) アーカイブの構築

第一期公開7作品のデジタル映像の整備、上演作品分析データ(メタデータ)作成、台本翻訳(英語、中国語、日本語)などを行い、2010年4月のアーカイブ公開に向けて具体的な作業を進めた。

4. 研究成果

(1) アーカイブの構築

ウェブ・アーカイブA-S-I-Aは、主に、シェイクスピア上演作品映像資料と、上演作品の詳細な分析データ(メタデータ)から構成されている。

① 上演作品映像資料

平成19年～21年の3年間に、日本、台湾、中国、シンガポール、韓国、フィリピンの劇団より計37作品の上演映像および著作権を取得した。その中から第一期として以下の7作品を選び、ウェブ・アーカイブA-S-I-A (<http://a-s-i-a-web.org/>)において、2010年4月に公開することとした。

第一期7作品の選定基準：

- 上演された国・地域間のバランス
- 特色あるインターカルチュラルな手法
- 舞台作品としての高い完成度

第一期選定作品：

- [日本]
 - 『ハムレット』、りゅーとぴあ能楽堂シェイクスピア、栗田芳宏(演出)、(2007年)
 - 『アテネのタイモン』、シェイクスピア・シアター、出口典雄(演出)、(1996年)
 - 『ク・ナウカで夢幻能なオセローOTHELLO』、ク・ナウカシアターカンパニー、宮城聡(演出)、(2007年)

[韓国]

『コリオレーナス』、Hwadong Theatre Company、LEE Hyon-u (演出)、(2005年)

[シンガポール]

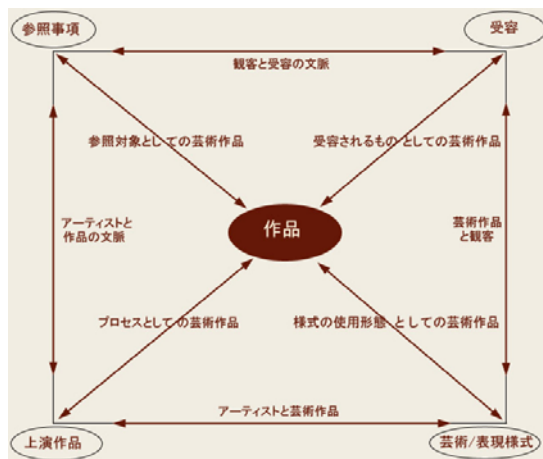
『リア』、国際交流基金、オン・ケンセン (王景生) (演出)、(1997年)

[中国]

『大將軍コー・リウラン (寇流蘭)』、北京人民芸術劇院、リン・ツァオファ (林兆華) (演出)、(2007年)

②上演作品分析データ (メタデータ)

インターカルチュラルな視点から上演作品を分析する基準を作成し (下記の図参照)、各々の観点から詳細に上演作品を分析した。



(シンガポール国立大学ヨン・リーラン准教授作成)

主な分析の観点

- ・上演作品：作品の制作・上演に関する情報。関連した個人・組織の情報、上演の日時・場所などの情報を含む。
- ・受容：上演作品に対する各種の反響に関する情報。
- ・芸術/表現様式：作品で用いられている表現形態や言語、既存のボキャブラリーの特徴的な用いられ方についての情報。作品を特徴付けている演出上の特色。
- ・参照事項：シェイクスピア劇やそれ以外で作品が参照している各種の文脈や、関連する上演作品についての情報。

上記の各観点は、上演作品を理解するための一つの方向性を示しており、全てを総合することで、各上演作品を取り巻く議論の場を形成することを目指した。

(2) 研究成果の国際的発信と国際的なネットワークワーキング

①研究集会の開催

シンガポール国立大学プロジェクトチーム、マサチューセッツ工科大学プロジェクトチーム、科研プロジェクトチーム (群馬大学、同朋大学) は、シンガポール国立大学において以下の通り定期的に研究集会を開催し、アーカイブの構築計画および具体的な構築方法を検討した。また、出席者による研究発表もあわせて実施し、上演研究に関する情報交換を行った。

第一回研究集会 2007年8月4日～8月10日

第二回研究集会 2008年5月1日～5月5日

第三回研究集会 2009年4月27日～5月3日

研究集会の主な検討事項

- ・著作権取得計画と著作権取得に関する問題点
- ・上演作品分析データ (メタデータ) のフォーマット作成とデータ分析手法
- ・翻訳 (メタデータ、台本) に関する問題点
- ・ウェブ機能とソフトウェア開発
- ・ウェブ・デザイン

②研究成果の発信と国際的なネットワークワーキング

国内外の学会でアーカイブ構築状況を報告するとともに、ウェブを利用した上演研究の意義や問題点について意見交換を行った。(発表の詳細については、5. 主な発表論文などの [学会発表] の項参照。)

(3) 成果の位置づけ

国際的な学会誌や学会でデジタル・シェイクスピア特集が組まれるなど、文学研究におけるデジタル化の可能性模索が一層の進展を見せるなか、ウェブ・アーカイブ A-S-I-A にも高い関心が寄せられた。

具体的には、以下の学会で報告の発表を要請されている。

・第49回日本シェイクスピア学会 (2010年10月、福岡女学院大学)

・第9回国際シェイクスピア学会 (2011年7月、プラハ)

(4) 今後の展望

新規獲得した科学研究費補助金助成事業として、引き続き、ウェブ・アーカイブ A-S-I-A の充実と活用を図る。(平成22年～

24年度基盤研究(C)「アジアにおけるシェイクスピア上演アーカイブの充実と活用」、課題番号 22520347、研究代表者：末松美知子、研究分担者：小林かおり)

具体的には、コンテンツ充実のため、今後3年間で約50作品の映像資料と上演作品分析データを公開する。

また、あわせて、比較演劇研究におけるウェブ・アーカイブの様々な活用法の検討を開始する。例えば、詳細な上演作品映像の分析は、インターカルチュラルなシェイクスピア上演の複雑さや多様性の客観的な検証を可能にするだろう。また、比較研究により、各作品の表現様式、参照項目、演出上の特色、シェイクスピア戯曲を脚色するアプローチなどに見られる文化的特殊性なども明らかになるであろう。

国内外の学会での成果発表やウェブ・アーカイブ上での意見交換などにより、ウェブ・アーカイブの比較演劇研究における新たな可能性を世界の研究者達と共有してゆきたい。

5. 主な発表論文など

[学会発表] (計11件)

① 末松美知子、小林かおり、ウェブ・アーカイブA-S-I-Aの意義と可能性、名古屋シェイクスピア研究会、2009.12.12、同朋大学(名古屋)

② Michiko Suematsu、Kaori Kobayashi、Asian Shakespeare Intercultural Archive (A-S-I-A): A Collaborative Digital Project、韓国シェイクスピア学会、2009.10.23、淑明女子大学校(ソウル)

③ 小林かおり、Local Shakespeares, Local Shakespeareans, 比較文学会中部支部大会セミナー「パラダイム・ロスト—文化・文学研究の現在」、2008.11.29、名古屋大学(名古屋)

④ 末松美知子、日英のシェイクスピア上演におけるメディアミックス、日本演劇学会研究集会パネルセッション「シェイクスピアとメディア」、2008.11.16、群馬県立女子大学(群馬)

⑤ 末松美知子、日本の上演史から見た歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、第47回シェイクスピア学会セミナー「シェイクスピア上演・上演研究の今」、2008.10.12、岩手県立大学(盛岡)

⑥ 小林かおり、日本のシェイクスピア上演を語るパラダイムの模索、第47回シェイクスピア学会セミナー「シェイクスピア上演・上演研究の今」、2008.10.12、岩手県立大学(盛岡)

⑦ Michiko Suematsu、Appropriation of Shakespeare on Japanese Stage: Ninagawa and Deguchi、第51回国際演劇学会、2008.7.16、中央大学校(ソウル)

⑧ Kaori Kobayashi、Going Beyond the Boundaries—Cultural Transbility of Asian Shakespeares、第51回国際演劇学会、2008.7.16、中央大学校(ソウル)

[図書] (計7件)

① 末松美知子、他、風媒社、日本のシェイクスピア上演研究の現在、小林かおり編、「日本の上演史から見た歌舞伎『蜷川十二夜』」、2010、28-38

② 小林かおり、他、風媒社、日本のシェイクスピア上演研究の現在、小林かおり編、「日本のシェイクスピア上演を語るパラダイムの模索」、2010、95-108

③ Michiko Suematsu、他、Cambridge University Press, *Shakespeare in Asia: Contemporary Performance*, Eds. Dennis Kennedy, Li Lan Yong, “Import/export: Japanizing Shakespeare”, 2010, 155-69

④ Michiko Suematsu、他、Perdue University Press, *Shakespeare in Hollywood, Asia, and Cyberspace*, Eds. Alexander C. Y. Huang, Charles S. Ross, “The Tokyo Globe Years: 1988-2002”, 2009, 121-28

⑤ Kaori Kobayashi、他、Dongin Publishing, *Globalizing Shakespeare in Korea and Beyond*, Ed. Hyon-u Lee, “Going Beyond Boudaries—Cultural Transbility of Asian Shakespeares”, 2009, 243-59

⑥ Kaori Kobayashi、他、University of Delaware Press, *Shakespeare's World/World Shakespeares: Proceedings of the VIII World Shakespeare Congress 2006*, “New Intercultural Shakespeare in East Asia”, 2008, 247-59

⑦ 小林かおり、南雲堂、じゃじゃ馬たちの文化史—シェイクスピア上演と女の表象、

[その他]

ホームページ

・ ウェブ・アーカイブ A-S-I-A(Asian Shakespeare Intercultural Archive)

<http://www.a-s-i-a-web.org/>

・ 群馬大学社会情報学部 舞台表象論研究室
(末松美知子)

<http://www.si.gunma-u.ac.jp/~sue/index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

末松 美知子 (SUEMATSU MICHIKO)

群馬大学・社会情報学部・教授

研究者番号：90216276

(2) 研究分担者

小林かおり (KOBAYASHI KAORI)

同朋大学・文学部・教授

研究者番号：40308820

(3) 海外共同研究者

ヨン・リーラン (YONG LI LAN)

シンガポール国立大学・文学部・准教授

ロビン・ルーン (ROBIN LOON)

シンガポール国立大学・文学部・講師

ヒョンウー・リー (HYON-U LEE)

順天郷大 大学校 (韓国)・文学部・教授

ピーター・ドナルドソン (PETER DONALDSON)

マサチューセッツ工科大学・文学部・教授

アレクサンダー・ファン (ALEXANDER HUANG)

ペンシルバニア州立大学・文学部・講師